

義務教育学校開校に向けた 住民説明会を開催しました

7月13日、交流センター「ふれ愛館」において、「義務教育学校開校に関する住民説明会」を開催しました。会では、村長、教育長と教育委員会職員が、これまでの経過や、義務教育学校の特徴とメリット等を説明しました。

出席者からは、新しい学校に対する期待や、新しい学校で取り組むべき事項（コミュニケーション能力を高める方策、転出した児童・生徒との交流事業の実施等）について、意見が述べられました。

住民説明会は、10月と来年2月にも開催する予定で、開校に向けた進捗状況や、新しい学校の教育内容等について説明していきたいと考えておりますので、多くの皆様のご出席をお願いいたします。

閉校記念誌の制作に 皆様のご協力を!

4つの小中学校が閉校となるのに伴い、閉校記念誌を制作します。内容構成については、専門部会が検討を進めています。

閉校記念誌の制作にあたって、4つの小中学校に関する資料や思い出を、卒業生の皆様、村民の皆様から募ります。

自身や家族が在校中の思い出や、学校への思いなどを、ぜひお寄せください。写真資料などのご提供も、同時に募集します。

村民の皆さんから寄稿いただく応募用紙を広報紙に同封します。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

問 教育委員会

☎ 0244-42-1631

義務教育学校の 校名候補を 選定しました



いいたて希望の里学園

来年4月に開校予定の義務教育学校の校名を募集したところ、133件の応募があり、7月17日に開催した第2回義務教育学校開校準備委員会で協議した結果、新しい学校の校名候補に「いいたて希望の里学園」を選定しました。

次のような考え方で選定されました

- 飯館村に生まれ育ったことに誇りを持ってもらいたいという願いを込め、応募校名中最も多かった「いいたて」を校名につける。
- 4つの学校が一つになるので、新しい学校をイメージでき、応募校名中最も多かった「学園」を校名の最後につける。
- 「いいたて」と「学園」に、新しい学校に込めた想いが伝わるよう、ふさわしい言葉を入れることとし、震災からの真の復興を望む村民の想いとして、応募があった中から「希望」を採用する。また、ふるさと飯館村の学校であり、おおらかで優しい子どもになってほしいという願いを込めて「希望の里」をつける。

校名候補は、村教育委員会の会議で承認後、村議会9月定例会で正式な校名として決定される予定です。

校名募集にご協力いただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。応募にあたり、校名に併せて考案理由や校名に寄せる思いも記入いただきましたが、それぞれに新しい学校に期待する強い思いを感じました。皆様の思いを新しい学校づくりに生かしていきたいと思っております。

準備委員会では、新しい学校の校章と校歌の制定方法についても協議し、児童生徒及び教職員で校章のデザインや校歌に寄せる思いを話し合うこと、準備委員会で校章デザインを決定後、専門家に補整をお願いすること、校歌の作詞を、専門家等をお願いすることが決定されました。

義務教育学校の 開校に向けて(2)

広報いいたて7月号「教育委員会NEWS」でお伝えした「義務教育学校の開校に向けて」の続編です。

●義務教育学校のメリット②

義務教育学校の最大の特色(メリット)は、15歳の卒業時の望ましい姿を思い描き、教育活動を進められるところにあります。また、9年間を見通し、一貫性をもたせた体系的な教育活動が行えるため、次のような特色ある学校をつくるのが可能になると言われています。

- ✿ 地域の歴史・文化などの特性を生かした教育活動を盛り込んだり、英語の授業を前倒しするなど、特色ある教育を行うことができる。
- ✿ 「中一ギャップ」などの課題を解消するため、9年間を見通した教育計画に基づき、児童生徒の発達段階に応じた教育活動を行うことができる。
- ✿ 小中学校の教職員が日常的に情報交換を行うことにより、「不登校」「生活指導上の問題」などの課題に組織的に対応することができる。
- ✿ 9年間の成長を全ての先生で見守るので、子どもの安心感が更に高まる。
- ✿ 授業や学校行事に限らず、登校時や休み時間での異年齢の交流活動が盛んになり、上の学年の子どもたちのリーダー性が育つ。

保護者にとって
もこんなメリッ
トがあると言わ
れています

- PTA組織を工夫することによって保護者間のコミュニケーションが増え、中学校入学時の保護者の不安の解消につながる。
- 小学校1年から中学校3年まで、子どもがどのように成長していくのかの見通しが持てる。
- 中学校に入学しても、これまで教えてもらった先生が同じ学校にいることから、安心して相談等ができる。